資料４－２

外来医療計画策定に係るワーキングでの協議結果

日時：令和元年１２月５日（木）１９：００～２０：３０
場所：県南広域本部５階大会議室
委員：西（文）委員、大柿委員、本田委員、西（徹）委員
　　保田委員、吉田委員、峯苫委員

１　夜間・休日の初期救急について

参考：資料４－１スライド 10、13～15

（１）現状

項目	データ（平成 29 年度実績）
①月平均患者数	夜間　２５９人　／　休日　９９１人
②医療機関数	８４医療機関

（２）目指すべき方向性

当医療圏では、８３医療機関が在宅当番医を担い、夜間は午後１０時まで八代市夜間急患センターが対応しており、体制としては概ね整っている。

在宅当番医制は、八代市医師会と八代郡医師会がそれぞれに設けているため、会員数が少ない八代郡医師会の当番回数が多い傾向にある。

現状は、圏域の医療機関の殆どが医師会に加入し、当番医制に協力しているが、６０歳以上の医師が５２．７％と半数以上を占め、将来に渡る担い手の確保が懸念される。

また、夜間急患センターには、小児科、総合診療科（内科・外科・整形外科）があり、小児科の患者が全体の８割を占めるが、小児科医師が管内に少なく圏域外の医師も参加することで体制を維持している。

こうした状況から、新規開業を行う医師にも協力を要請する等引き続き医師の確保に向けて取り組むこととする。

（※平成 31 年度では外来医療を行う 107 診療所中 83 診療所が参加している。）

２　公衆衛生分野について

参考：資料４－１スライド 11・16～22

（１）現状

項目	データ
①学校医	１００人（６６校）※幼稚園含む
②予防接種を実施する医療機関（市町村委託）	９８医療機関
③産業医	５７人

（２）目指すべき方向性

①　学校医

現状では、内科は８９人いるが、眼科は６人、耳鼻科が５人と少なく、１人

で十数校担当している医師も複数いる。
　そのため、健診の内容によっては健診の方法にアンケートを使用する等の工夫もしているが、医師への負担が大きいため、新規開業を行う医師に協力を要請する等引き続き医師の確保に向けて取り組むこととする。

② 予防接種を実施する医療機関
　当医療圏では、９８医療機関が予防接種を実施している。乳幼児の定期予防接種は内科でも実施しているが、管内の人口あたりの診療所の小児科医が少なく、地域からの要望も多いため、新規開業を行う医師に協力を要請する等引き続き医師の確保に向けて取り組むこととする。

③ 産業医
　当医療圏では、５７人の医師が産業医を実施しており、産業医１人あたり事業所数は２．１、従業員数は２５１人となっている。産業医においても６０歳以上の割合は５２．６％と半数以上を占めており、新規開業を行う医師に協力を要請する等引き続き医師の確保に向けて取り組むこととする。

３　在宅医療について

参考：資料４－１スライド 6、22

（１）現状

項目	データ
① 在宅療養支援病院数	１医療機関
②在宅療養支援診療所数	１８医療機関
② 在宅療養後方支援病院数	２医療機関
③ 訪問看護ステーション数	２３施設

（２）目指すべき方向性
　当圏域では、行政（八代市・氷川町）と医師会（八代市医師会・八代郡医師会）の連携による「八代地域在宅医療・介護連携支援センター」及び各医師会に在宅医療サポートセンターを設置し、在宅医療を推進している。
　圏域では２０３６年までは後期高齢者の人口の増加が予想されており、在宅医療の需要も一層高まることが想定されるため、新規開業を行う医師にも協力を要請する等引き続き医師の確保に向けて取り組むこととする。

４　医療機器の状況

（１）主な医療機器の配置状況

機器名	保有台数	機器名	保有台数
ＣＴ	２２台	マンモグラフィ	５台
ＭＲＩ	６台	リニアック	２台
ＰＥＴ	０台		

（２）目指すべき方向性
　現状では熊本労災病院と熊本総合病院（地域医療支援病院）及び八代北部地

域医療センター（八代郡医師会立）で医療機器の共同利用を図っている。
　引き続き、地域における共同利用を進めるとともに、（１）にあるような高額な医療機器については、購入、更新等の場合には、地域医療構想調整会議で協議を行うこととする。

【その他の意見】

・当番医について、八代市医師会では眼科・耳鼻科・産婦人科・皮膚科の診療所は当番に入っていないが、耳鼻科はシーズンによっては需要があるのではないか。

・初期救急の担い手が減れば２次救急の需要が増えるだろうが、医師の働き方改革もあり、救急病院も担いきれないようになるのではないか。

・へき地診療所では、夜間診療は、勤務してくれる看護師がいないので難しい。

・学校医について、現在も耳鼻科健診が必要なのか。昔と違って今の耳鼻科の疾患はアレルギー性鼻炎が多い。診察科目の見直しが必要ではないか。

・小児の予防接種は、内科ですることもあるが、何かあった時の親の反応は、「やはり小児科ではないから」といった感じである。小児科の需要は高い。

・在宅医療について、在宅療養支援診療所になるには基準が厳しく、なかなか増加しないでいるが、在宅医療を実施している診療所は結構多い。

・医療機器について、人口と医療機器の適正な割合はあるのか。